



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2012年2月1日

2月号 第121号

奈良・人と自然の会

会長 阿部和生



- * リレー随筆「お元気ですか」
- * 「蕎麦文化クラブ」新春レポート
- * ならやまくレポート・自然観察・写真「彩りの森推移」>
- * アリさんとシロアリさんの関係は? 「昆虫講座⑩」
- * 被災地への想い「とりシリーズ」
- * 「自然をいただきま〜す」・癒しの散歩道
- * 自然俳句・「熱い慈悲」・地域情報
- * 2・3月の行事案内: 「室池探鳥会」「奈良公園自然観察会」「和爾の里」
- * 今月の表紙・ペン画によせて

| | |
|----|----|
| | 1 |
| | 2 |
| 3 | 5 |
| | 6 |
| | 7 |
| | 8 |
| 9 | 10 |
| 11 | 12 |
| | 13 |



ルー随筆 お元気ですか!



冬の奈良公園周辺散策の楽しみ

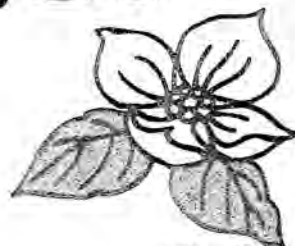
池田 信明

奈良公園界限も、秋の南京ハゼ、モミジ類の燃える様な紅葉の季節が終わると観光客の数も減り、鹿さん達も観光客サービスの忙しさから解放されちょっと一休みと言った所かも知れない。

この時期に私は、公園の周辺、大仏殿裏、飛火野から春日奥山を散策する事が有り、楽しみが一つある。花の季節では無いが、色々な木の実を観察する事が出来る、エノキ、ムク、シャシヤンボの甘い実、など食べる事もできる。又、イヌガシの黒い実、ナナミ、ソヨゴ、クロガネモチ、カナメモチ、などの赤い実、ネズミモチ、ムクロジ、の黒い実、イズセンリョウの白い実、ムラサキシキブの紫の実、など多くの木の実を観察出来る、特にナナミの実は鈴なり状態で、今年は木の実は当り年かも知れない。ただ、観察会などで、ディアラインの話がよく出るが、草地などで、有るべき実のなる草の、冬イチゴの甘スッパイ実などが見られないのが寂しい限りです。野鳥も群れて飛来して忙しそうに、ご馳走の実をついばんでいる様子は可愛いものです。師走に入り、春日大社の春日若宮おん祭りを過ぎると、春日大社、東大寺も、新年の初詣を迎える準備が始まり、何となく身が引き締まる様な風景と気持ちになる時期でもある。

機会があればお越しいただければ幸いです。これからの人生を楽しく過ごすためにも日常の生活を大切に「毎日元気でいたい」と日々思うことである。

私の庭



田中 澄代

- 一月 新春のシンピジュームが窓辺を飾る
- 二月 梅花が春の到来を予感する
- 三月 クリスマスローズが種々の個性を競う
- 四月 大地が動き出す 三百株のチューリップの進行
- 五月 モッコウバラ ナニワのいばらが庭を被う 一年で一番元気の良い庭
- 六月 アジサイ寺ならぬアジサイ屋敷と化す 百株の七変化は雨のうっとうしさを吹きとばす
- 七月 アジサイの残花とノウゼンカズラの朱赤が対照的
- 八月 樹木の緑がいやに元気に見える 大半の花たちは夏眠に入る
- 九月 少しずつ大地が動き出す
インパチェンスがカーパスが、その出番を準備中
- 十月 庭に命を吹き込む 球根の植え付けだ 大好きな庭
- 十一月 霜が降り始めると花たちがポツリポツリと姿を消してゆく
これでおしまいの花……
また春に出会える花……
- 十二月 福寿草が 今年の終わりを告げに出る

毎月楽しませてくれる庭に 飽きることはない

追記 毎年10月に「私の庭」のオープンガーデンを開催して、皆さんに観てもらっています

蕎麦文化クラブ新春会リポート

四宮 憲一郎

「新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく」の挨拶が行き交う、天候にも恵まれた1月17日の近鉄・生駒駅前。蕎麦文化クラブの集合風景です。

駅からタクシーで10分位のところにある古民家を改造したと思われる趣のある蕎麦処「春知」が本日の会場。現地集合の方も含めて18人が参集しました。

この2年間の活動を振り返った古川蕎麦文化クラブ会長の挨拶、それに続く乾杯の発声で、新春会が始まりました。

蕎麦と小海老のかき揚げや、蕎麦団子汁、豆乳鍋、10割蕎麦などの蕎麦懐石と美味しい地酒で宴はヒートアップ。私のテーブルでは蕎麦談義だけで盛り上がり、あっという間の2時間でした。最後は、川井顧問の俳句教室で一旦中締め。

その後、行基にまつわる往生院や竹林寺、さらに往馬大社への歴史散歩を行い、午後4時ごろ解散となりました。



そばクラブ 新年会。生駒路の老舗、「春知」で開催。それぞれ新年のコメントに代え、早春の一句を詠んでいただく。

順不同

| | |
|------------------|-------|
| くらがりに春知る蕎麦を楽しめり | 古川 祐司 |
| 笹鳴きや賤の庭居の枝を跳ぶ | ” |
| 福寿革命のちから土を割る | 村上 雄之 |
| 山坂の笹鳴きの佳し蕎麦クラブ | 田中 克彦 |
| 待春や目より耳より日は優る | 塩本 勝也 |
| 笹鳴きの愛でる声あり蕎麦美味 | 谷川 雅邦 |
| 春灯やざわめきのなか揺らめきて | 井戸八穂子 |
| 新走り日だまりに酔ふ蕎麦の膳 | 寺田 孝 |
| 去年今年蕎麦を楽しむ「春知」かな | 八木 順一 |
| 松納め一年見据え蕎麦の味 | 青木 幸子 |
| 春光や和みの蕎麦にまた和む | 羽尻 嵩 |
| 新酒にざる一枚の老舗かな | 川井 秀夫 |

ならやまプロジェクト・レポート 24年1月

12月17日(土) 晴 参加者16+8名

彩りの森の植樹完了。A地区のコナラを間伐し、クリ植樹の準備をする。実習生6名は里山グループと共に皆伐更新試験区の間伐と搬出。シニアボランティア大学校から2名、見学のため来訪。



12月22日(木) 晴 参加者39名

A地区林地のクリ(銀寄)5本と柑橘類(ポンカン)3本植樹。C地区にクリ(銀寄)3本植樹。里山グループは、皆伐更新試験区の間伐作業と薪小屋の屋根掛けと薪割を実施した。

野菜の収穫(里芋、クワイ、大根、白菜、水菜)と椎茸で収入は16,700円と過去最高!

川勝さんの手配でテント倉庫内の収納スペースの改良が行なわれた。道具が増える中で整理整頓がしやすくなった。



12月26日(月) 曇り 参加者29名

迎春準備、門松一對設置。正月野菜の頒布(里芋、ダイコン、白菜、椎茸、牛蒡等々)。持ち帰り用角松の作成と葉牡丹の販売。午前で活動終了。 3



1月5日(木) 晴 参加者41名

新春初出。餅つき、七草粥、お神酒で新年を祝う。C地区クヌギ幼木移植のため根回し、掘り取りをする。里山グループはコナラ萌芽試験区の整備と薪割を行った。



1月12日(木) 晴 参加者36+10名

椎茸菌打ちに備えホダ木切り130本。佐保自然の森植樹(西条柿3本、ミカン5本、C地区のコナラ移植)。ジャガイモ、蕎麦跡にチップ堆肥を散布し土づくりをする。実習生2名参加。

1月13日(金) 晴(臨時) 参加者7+3名
シニア自然大学校水生生物科の定期調査。植樹後の水遣り。瀬戸内オリーブ基金の上川事務局長が植樹状況の視察のため来訪。

1月19日(木) 曇り後雨 参加者36+4名

全員一斉ゴミ回収、水路掃除をする。コナラ皆伐試験区の整備。畑土づくり。実習生4名参加。

(藤田 記)

ならやま里山林自然観察レポート

ならやま里山林花だより

吉村 さつき

1月5日(木) セリ、ナズナ(ペンペン草)、ゴギョウ(母子草)、ハコベラ、ホトケノザ(子鬼田平子)を摘み草しました。お粥の中に入れられ少し早い七草粥がふるまわれました。スズナは他からスズシロは畑から調達しました。これで一年無病息災で過ごせそうです。

里山で落葉した木を見るとなんだか寂しげな気がしますが、クヌギやコナラのように長い間枯れ葉が枝に残る木もあります。これは葉柄に離層が形成されない為です。新葉が展開する頃に離層が形成され落葉します。

1月12日(木) ジンチョウゲ、クロモジが花芽をつけていました。クロモジは樹皮が暗緑色で黒い斑点がありそれが文字を書かれたように見える事から「黒文字」と名付けられたそうです。材は高級爪楊枝として使われます。

草花*ナズナ、ハコベ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ

木の実*ナンテン、ソヨゴ、ヒサカキ、コシアブラ、
ヤブコウジ、アオキ、カナメモチ、カラタチバナ、
マンリョウ(赤・白)、クコ、オモト

花壇*スイセン、サザンカ



ならやま鳥だより

小田 久美子

1月10日(火)。 7種 28羽

観察の帰りにクロジかと思われるのがちらりと見えましたが、冬鳥の姿が少ない印象でした。



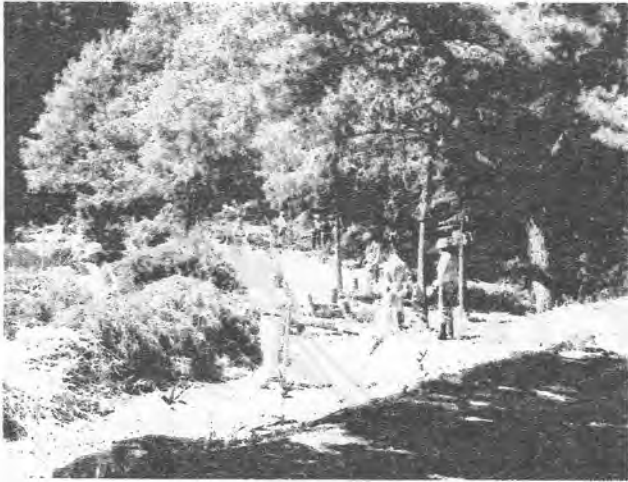
写真で見る「彩りの森」整備の推移

(2011年9月～12月)

9月15日 植樹に先立ち 間伐作業



12月15日 「彩りの森」第3回植樹



8月～9月

連日の除伐木の伐採と整理 (里山グループ)

植樹完了!

瀬戸内オリーブ基金のプレートの前で記念撮影

(藤田 記)

アリさんとシロアリさんは赤の他人

—やさしい昆虫講座（第16話）—

木村 裕

アリさんの続きです。日本にはいませんが、熱帯地方には頭でっかちで大きな牙を持ったハキリアリがたくさんいます。名前の通り草花や野菜、樹の葉っぱなどを切り取って巣に運ぶ大型のアリで、地中に直径10メートルにも達する大きな巣をこしらえ、集めてきた葉っぱでキノコを栽培します。作業現場では先発隊が樹にするすると登ってするどい牙で葉をジョキジョキと切り落とします。すると下で待っていたアリがその葉を口に銜えて巣までつぎつぎに運ぶので、大きな葉っぱがゆらゆら揺れる旗行列ができます。以前パナマで私が住んでいた屋敷のブーゲンビリアがこのアリに狙われ、日に日に葉が少なくなり、1週間後には枝のみになりました。しかしその段階になるとお許しができるようで、その後に開いた葉はまったく攻撃を受けませんでした。

シロアリもアリの仲間だと思っておられることと思いますが、まったく別のグループの虫です。アリはハチの仲間である昆虫ですが、シロアリはゴキブリに近い原始的な虫です。

シロアリは柱や床を食い荒らして家を壊す恐ろしい虫と恐れられていますが、虫を見たことがありますか？ ほとんどの人は見たことがないと思います。いつも床下や柱の奥深くに潜んで静かな生活を送っているので顔を

つき合わすことはありません。唯一外に出るのは良き伴侶探しの時です。あるとき巣から羽根のある兄ちゃんと姉ちゃんが一斉に飛び出します。合コン会場では数百匹の虫が群がり、やがて気に入った相手を見つけたアリは羽根を切り落としてペアとなって新しい住処を求めて離れてゆきます。この時に初めて私たちとお目にかかることになります。

地中や材木内に潜った女王アリは王アリと一緒に生活し、5～10年間は生存し、卵を産み続けます。また、シロアリは名の通り普段は白色で、成虫も幼虫も同じ姿をしています（アリは親子で姿がまったく異なります）。

予防対策としては、新婚のシロアリ夫婦を招待しないことです。そのためには、床下の通風を図ることです。日本の家屋は基礎のところどころに通風孔が作られています。この孔を塞がないことがポイントです。また、家の周辺に不要となった材木、とくにマツ材を放置しないことです。地面上に放置された材木は適度の湿り気があり、シロアリを呼び込んでいるようなものです。

熱帯地方には高さ1メートルもあるような蟻塚をつくるシロアリがいます。塚の表面は堅くかためてあり、足で蹴ってもびくともしないほど頑丈です。このようなアリの塔がによきによきと林立している産地？もあります。

羽根のあるアリとシロアリの簡単な見分け方

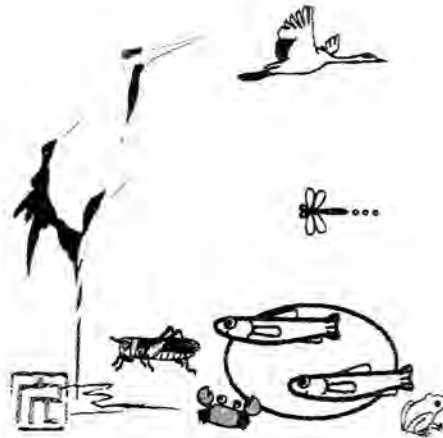
| | アリ | シロアリ |
|---------|------------------|----------------|
| 体の色 | 黒色またはあめ色 | 褐色 |
| 羽根の色 | 透明 | 銀色で半透明 |
| 羽根の形と枚数 | 2枚の大きな羽と2枚の小さな羽根 | 大きな羽根が4枚 |
| 羽根のたたみ方 | 体と垂直方向にたてる | 体の上に平に広げる |
| 体型 | 頭、胸、胴体が団子状に並ぶ | 上から押しつぶしたように扁平 |
| 発生する場所 | 灯り | うす暗い場所、台所や風呂場 |



被災地への想い

小田 久美子

東日本大震災のニュースに、大きな驚きと共に心を傷められた方も多かったと思います。連日報道される映像は、人々のこれからの苦難と忍耐の日々を思う時涙無くしては見られないものばかりでした。同時に不謹慎ではありますが、犬や猫や家畜たちはどうしているかと気掛かりでした。そして次は、



日本最大のガンの飛来地、宮城県伊豆沼・蕪栗沼はどうなったのだろうかでした。H18年訪れた時「この風景がいつまでも残って欲しい」と会報に載せましたが、今年も変わらずかれらの安息地になれるのだろうか和鳥たちのことも気掛かりでした。人々の秩序正しい頑張り世界で賞賛され、同じ日本人として誇らしく思う日々の中、ボランティアさんたちに人だけでなく保護される犬や猫たちに少し安堵。そして秋、ガンたちも帰って来ました。震災の海ゴミで心配されたサケも北上川 200 ㎞を元気に遡上して来たようです。震災・津波・原発の三重苦の東北。続く十津川など紀伊半島の被災地の人たちは十分頑張っているらしいやいます。まだまだ長い道のりですが日本人の底力を信じて、被災しなかった私たち一人ひとりが被災地に心を寄せ「頑張って」今何が出来るのかを考え続けて行きたいです。先日、里山の番組を観ました。宮城の農家斎藤さんが冬水田んぼを試みたら、田んぼに水中昆虫が増えガンたちがやって来ました。コハクチョウも嘴を泥に突っ込んで顔が真っ黒になりながら・・・そして、驚くことに北海道からタンチョウ・兵庫からコウノトリが来て一緒に餌を啄ばんでいます。一箇所集中の危機的なガンたちを救うための取り組みでしたが、かれらの糞が肥料になり、雑草の芽生えを遅らせるというご褒美に冬水田んぼに取り組む農家さんが多くなりました。いつかこの中に佐渡のトキも来てくれるといいなあなんて思いました。これは震災以前の映像なのですが、東日本の明るい未来を信じられる心温まる番組でした。



自然をちょっぴり いただきま〜す 西谷 範子

2月になると、冬の間じっと耐えていた草も伸び始め木々の芽も動き出し、植物界は春が始まります。中でもハコベが一番に青々と茂り、そのやわらかい浅黄色の葉は食欲をそそります。ひと茹でて何にしても食べられますが、葉が小さいため茎の方が多く残り沢山食べるのには工夫が要ります。

なんと言ってもこの季節の野草の王者は蔞のとう！

蔞のとうは蔞の花のつぼみです。葉が出るより先に花が咲きます。まだ少し早いですが、日当たりの良い所ではもう出ています。淡緑色の数枚の苞にくるまれた中につぼみが沢山かたまっています。この苞ごと食べるのです。



蔞の花は結実せず、増殖は地下茎を伸ばして増えるので、つぼみを採っても蔞が根絶やしになることはありません。

よく知られているのはそのまま揚げるてんぷら。細かくきざんで味噌と合わせる蔞味噌。蔞のとうが少ない時は、味噌の中に混ぜて他のものを和えてみましょう。蔞の香り豊かな立派な一品になります。

きざんで味噌汁の吸い口にしたり、雄花だけばらばらにして揚げて、トッピングやサラダに混ぜても乙なものです。

苦くて嫌な人はさっと茹でて水にとり、少しアクをさらすと食べやすくなります。あとから伸びてくる蔞の葉や茎の料理はまた後日に。



<癒しの散歩道>

春のさやけさ麗しく

谷川 萬太郎

ほらそっと耳を澄ましてごらんその小さな手で 遠い海から岸打つさざ波が春色の潮風を運んで来る
ほのかに揺らめく淡い黄色の春の光が海に溶け 生まれたての白波の妖精のようにほのぼのと煌めく
はるか遠くの故郷の追憶に耽るあなたを誘いて ある日あの時小さな胸に刻んだ面影を思い出させる

ほらそっと耳を澄ましてごらんその小さな手で 長い冬の旅路の果てにあなたが見つけた春色の足音
限りなく巡る時節の出迎えの身支度の嬉しさに 季節の薄化粧に戸惑い胸弾む鼓動が喜びに溢れてた
春を待ちわびる優しい草花の固い蕾いじらしく きつと柔らかな陽ざしに包まれる日がくる事を想い

本年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます

川井 秀夫

見据えたるこの一年の竜の玉

今年は辰年。中国では龍は神の象徴。守り神にちよいとご挨拶。
「竜の玉」は蛇の髭の実のこと。冬の季語。

きよけい

あの顔もこの顔も佳し御慶かな

里山の事始め。清々しい顔・顔・顔。今年も一つ若返って頑張りますか。
「御慶」は俳句言葉、新年の季語。

いほ

枝ぶりの冬芽点々疣の神

小さな命が春の準備を整える。生命体の鼓動が聴こえる様だ。
尊い輪廻の世界。「疣の神」は冬芽の形をイメージする。

とよ

祝餅虚空に響む杵の音

昔取った杵柄とはよく言ったもの。シニア世代の腕っ節に衰えなし。
少し腰の座りが甘くなったかな。

はらわた

腸に七草粥を届けたり

一病息災を願う。心づくしの草の香りが快い。大地の恩恵は無限。

へいげい

竜天に登る平城山睥睨す

「竜天に登る」は春の季語ですが、今年辰年の年頭に先取りしました。「ならやまPT」に大いなる実りを祈念致します。



「熱い慈悲」



竹本雅昭

揚：大根さん、私達やっと人々のお役に立てますわね。今日は40人以上も。

大根：そうだね、嬉しいような悲しいような複雑な気持ちでござす。あゝそれから、おいどんは正式には桜島大根と言うんだ。こちらの畑で大きくなったけど先祖は鹿児島でござす。

揚：そう、白くて柔らかくておいしそうね。私元は大豆なので畑出身という点では一緒ね。でも生まれは外国よ。

大根：おいおい美味そうだからって、そんな目で見ないでくれよ。大鍋の中でのご縁だ。人々のお腹をあっためる迄しばしお喋りしますか。我々は太腹の西郷どんに負けるなど、大きく丸々と育つでござす。

鍋：おーい、もうすぐ出来上がりだぞ。みんな心の準備はOKかな。

大根：はい。大丈夫でござす。地産地消の新鮮なエネルギーを喜んで食べて頂ければこんな嬉しい事はござせん。

鍋：流石、薩摩子と畑のお肉出身じゃのう。わしは、ここで大事にしてもらったもん、これからも美味しいもんどっさり作れる様頑張るわ。

大根・揚：お世話になりました。
(芋煮会)

ちいきじょうほう

★(檀原) 去年大晦日の午後きました。毎年来てくれるアオジです。チツ チツ...
元気そうです

1月15日午後3時ころ庭に置いてる藁に残っている稲穂を見つけた
アオジ♀のアオちゃんがさかんに辺りを気にしながらも可愛い目で一粒一粒
嘴でモミをしごいて食べてました。私はのんびりコタツで観察。(斎藤)

★1月3日崇神天皇陵でオシドリ・キンクロハジロの♀・マガモ・
ホシハジロ♂・♀・カイツブリ・オオバンを見ました。

田んぼには山野の鳥は見られませんでした。山の辺の道でモズ
ハシブトガラスジョウビタキの鳴き声ぐらいでした。長柄駅近くの池に
ハシビロがモが6羽いました。

(斑鳩)ハイタカを16日・17日1羽見ました。19日ハイタカを2羽見ました。
竜田観音上り口のエノキの木と大和川の対岸のカラスのよく来る
木にいました。

1日に2羽のハイタカを見るのは初めてです。雌は大きいです。
私達のフィールドではこの冬は鳥の種類・数が少ないです。
特に シロハラ・シメはまだ姿を見ていません。
いろんなところでも少ないという話を聞きますが・・・
みなさんのところでは如何ですか

(勝田)



ハイタカ

行事案内

※原則：前日午後7時前のNHK天気予報で、降水確率(午前)60%以上の場合は中止

※当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません

『ならやま里山林プロジェクト2月・3月の予定』

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林 (JR 平城山駅下車徒歩10分)

—「ならやま会館」前の道路(ならやま大通り)の南側に広がる林地—

| 2月の活動日 | 3月の活動日 |
|--------------------------------------|----------------------------|
| 2日(木) | 1日(木) |
| 9日(木) | 3日(土) 公開イベント予備日(椎茸菌打ち) |
| 16日(木) | 8日(木) |
| 23日(木) | 15日(木) |
| 25日(土) 公開イベント<椎茸菌打ち> (雨天予備日は3月3日) | 22日(木) |
| | 29日(木) |
| 教育実習生受入日 2日、9日、16日、23日 | 教育実習生受入日 1日、8日、15日、22日、29日 |

集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 15時

交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場 8:23発 高の原行 (平日・土曜)

②近鉄高の原駅 バス1番乗場 8:32発 JR奈良行(平日)
8:30発 JR奈良行(土曜)

①、②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品*環境保護のため、コップ・箸・椀などは各自でご持参下さい。

【2月例会】室池探鳥会 オシドリなどの冬鳥観察

日時：2月8日(水) 9:00時集合

集合場所：近鉄生駒駅改札口

コース：戎バス停～室池園地～園地内周遊～戎バス停

持ち物：双眼鏡・弁当・飲み物・敷き物・寒さ対策 (注)今回はコース内に少しアップダウンがあります。

★ならやま・バードウォッチング

☆日時：2月13日(月) 9:00集合

★集合場所：ならやま駐車場

☆小雨決行：判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。

奈良公園自然観察会のご案内

自然教室チーム

自然教室チームでは下記により研修会を予定しております。会員の皆さんの中でこの研修会に参加したいというご希望がありましたら、どうぞ奮ってご参加ください。自然教室チームに加わるとか加わらないとかとは関係ありません。



1. 日 時 : 2月15日(水) 9時30分～12時
2. 場 所 : 奈良公園 春日大社～飛火野地区
3. 集 合 : 東大寺大仏殿前交差点近辺の「浮雲園地」 9時30分
(大仏殿バス停の近く、人力車のたまり場の少し奈良公会堂寄り)
4. 実施内容 : ①メンバー小田久美子さんによる自然案内
②楽しいネイチャーゲーム
5. 持 参 物 : 筆記用具、雨具、飲み物
6. 雨天判断 : 前日午後7時前NHKの天気予報で、降水確率(午前)が60%以上の場合は中止(例会等の判断基準に同じ)
7. 申 込 み : 資料準備の関係上、2月8日(水)までに倉田あて申込みをしてください。



<3月の予定>

【3月例会】

～謎の豪族・和爾氏と天才歌人・人麻呂のルーツを探る～
和爾の里を巡る

- 1 日 時 3月31日(土) 10:00集合
- 2 集合場所 JR桜井線 樺本駅 改札口
- 3 担 当 川井 秀夫
水本 遼真

※ 詳しくは3月号でお知らせ致します。

平成24年度1月度幹事会報告

日 時： 平成24年1月11日（火） 14：30～16：50

場 所： 奈良市 中部公民館

出席者： 幹事15名、顧問1名

- (1) 会員数127名
- (2) 10周年記念新春講演会 「春日山原始林の未来を考える！」 1月22日（火）
13：00～13：20 10年継続会員表彰式 13：30～16：30 講演会
- (3) 県フラワーセンター閉鎖に伴い樹木を譲り受ける。「佐保自然の森」に移植
- (4) 24年度総会開催日 5月12日（土）13時30分～ 予備日13日（日）
- (5) 今後の例会にたいする「例会準備会の提案」報告 今年度例会年間計画は1/25に決定予定

表紙のペン画によせて

境 寛

昨年の2月 高取町での雪景色です。
市街地を離れた古い旧家の家並みと車の轍、
どんよりと低く垂れこんだ雪雲の雰囲気を
かもし出されたらとペンをとりました。

編集後記：*日脚が長くなってき、頬に当たる太陽の仄かな暖かさにホッとされます。

でも、これからが寒さの底の様です。インフルエンザが流行してきているようです。

くれぐれもお体に気をつけて、ご活躍下さい。

*会報発送作業・編集会議日：3月号の作業は2月27日（月）午前9時から「西奈良ボランティアセンター」で行います。毎回多くの会員の方々のご協力をいただいております。今回もよろしく願いいたします。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX